



平成31年4月26日

第2号

支笏湖小学校

校長 小川 亮男

平成31年度 学校重点教育目標

『実践力（できる）へとつながる学校教育活動の推進』

連休を迎えるに当たって……

校長 小川 亮男

最近目にした、日本・米国・中国・韓国の高校生の意識調査データによると、どうも日本の子どもたちの勉強の仕方や家庭におけるルールが、他国とだいぶ違うようです。

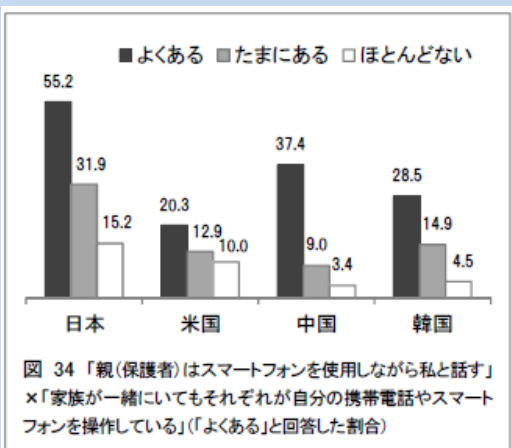
■日本・米国・中国・韓国の高校生の意識調査比較

＜勉強の仕方＞……今始まっている教育改革は、この違いを埋めようとしているのでしょう。

日本が最も多いのは、「試験の前にまとめて勉強する」で、12項目の中で群を抜いている。

一方、「自分で整理しながら勉強する」「できるだけ自分で考えようとする」「教えられたとおりに勉強する」「参考書をたくさん読む」「勉強したものを実際に応用してみる」「教わったことをほかの方法でもやってみる」の割合が米中韓に比べて低い。

米国は、「できるだけ暗記しようとする」「教えられたとおりに勉強する」「勉強したものを実際に応用してみる」「教わったことをほかの方法でもやってみる」がともに群を抜いて高い。また、「自分で整理しながら勉強する」「問題集でたくさん練習する」「方法や過程より結果がわかればいいと思う」の割合も4か国中最も高い。

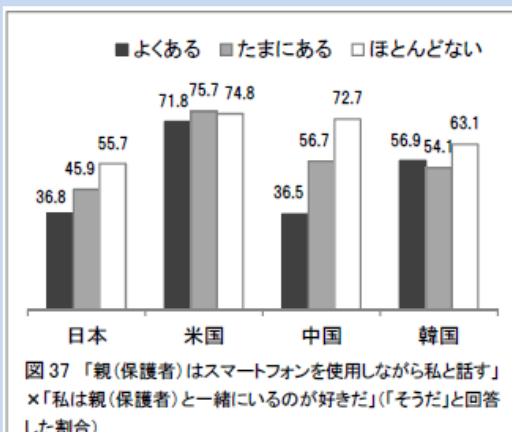
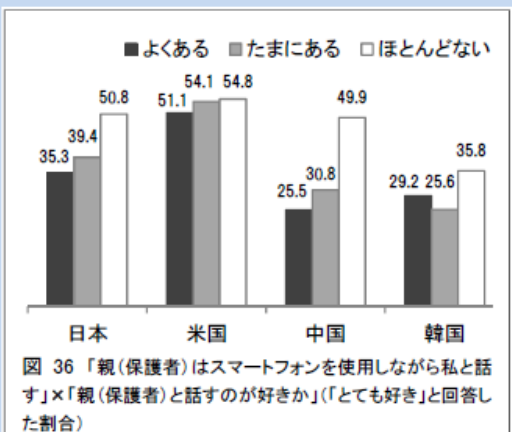


「親(保護者)は携帯電話やスマートフォンを使用しながら私と話す」ことが「よくある」に対して

「家族が一緒にいてもそれぞれが自分の携帯電話やスマートフォンを操作している」(図 34)とその下の(図 36)(図 37)に相関関係が見られる。

「家族と食事や団らんのときには携帯電話を操作させない親のしつけ」が他国ではなされていて、「子どものうちは、電話等の使用は親がいるところでしか使わせない」ということもよく聞く話です。

(親が許可した中での自由)



臂膊(ひはく)
外に向いて曲
がらず
臂膊=ひじ

全くの自由は
必然的に頹廢
(たいはい)
を意味する